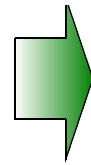


# 軍事力でなく

在日米軍経費(2010年度)  
日本の負担は  
**7146億円**

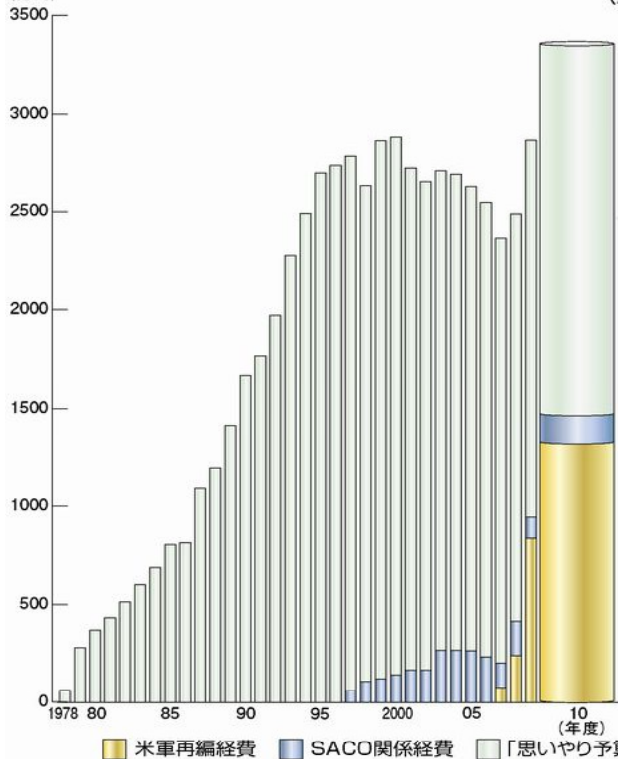


**医療・福祉・教育**  
充実の予算に

# 憲法9条を生かし平和を守ろう

いままや日本は世界第2位の軍事力を持ち、中国や北朝鮮への脅威になっています。軍事力の拡大をはかることは、緊張を高めるだけで、なんの实りもありません。隣国であり、経済や文化など切っても切れない結びつきがあります。道理に合った外交力で紛争を解決することが大切な事です。

(グラフ1) 「思いやり予算」、SACO関係経費、米軍再編経費の推移 (億円) (歳出ベース)



紛争は「話し合い」で解決  
「軍事には軍事」は戦争への道

いま、北朝鮮の無法な武力攻撃に対して、軍事力による抑止が叫ばれていますが、しかし、いま必要なのは、冷静な対応と話し合いであって、武力で脅したり、軍事力を使用することではありません。日本はすでに大きな失敗をしました。武力で「強い国」になって、アジア諸国を侵略し、たくさんの方々の犠牲者を出してしまいました。1945年に敗戦し、「過ちは二度とくりかえさない」という誓いをたて、「戦争をしない国」として再出発したのです。

米軍配備 「日本がもつとも安上がり」(米国防総省)

アメリカ軍は何のために日本にいるのでしょうか。「日本を守るため」ではありません。日本が、アメリカの駐留経費の75%も負担する気前のいい国だからなのです。

アメリカ自身が「日本の高額支援のおかげで、アメリカ軍を配備するのに、日本はアメリカ国内も含めてもつとも安上がり」の場所(92年米国防総省『アジア太平洋戦略の枠組み』)、「日本に空母戦闘部隊を維持するほうが、米国西海岸で維持するよりも安上がり」( Cheney 国防長官) だと述べています。

本来、日本が負担しなくてよい予算なので「思いやり予算」と呼ばれ、1978年から2010年までの総額は3兆円を超えます。「思いやり予算」を含む在日米軍の駐留経費の日本負担は7000億円以上。この気前のいい負担を日本にさせつづけるために、アメリカは日本に居座っているのです(表とグラフ参照)。日本の防衛のためではありません。

米軍経費の負担をやめ、医療や福祉など国民生活のために使うべきです。

●2002年における各国の駐留米軍経費負担率

国	負担率	額(ドル)
日本	74.5%	44億1.134万ドル
サウジアラビア	64.8%	5.338万ドル
カタール	61.2%	8.126万ドル
ルクセンブルク	60.3%	1.925万ドル
クウェート	58.0%	2億5.298万ドル
イタリア	41.0%	3億6.655万ドル
韓国	40.0%	8億4.311万ドル
ドイツ	32.6%	15億6.392万ドル

財務省「日本の財政と防衛力の整備」より